

東京大学

理学部広報

第2巻 第11号 昭和45年12月15日

内 容

理学会合日誌	2
教授会メモ	2
教務委員会	2
総長選挙制度についてのアンケート報告（幹事会）	3
理学部討論集会について	3
理学博士学位授与者	4
学生関係	4

11 月理学部会合日誌

- 4 日 (水) 15:00~17:00 主任会議
6 日 (金) } 国立 10 大学理学部長会議
7 日 (土) }
9 日 (月) 14:00~17:00 理学系研究科委員会
11 日 (水) 13:00~15:00 人事委員会, 15:00~17:00
教務委員会, 16:00~19:30 討論集会
16 日 (月) 10:00~13:00 会計委員会
18 日 (水) 13:00~17:20 教授会
19 日 (木) 16:00~19:00 名誉教授の会
25 日 (水) 15:00~17:00 教務委員会
28 日 (土) 12:30~14:00 教官懇談会
30 日 (月) 12.30~14.00 理職との会見
-

教授会メモ

11 月 18 日 (水) 定例教授会
(13 時 ~ 於 4 号館物理会議室)

1. 前回議事承認
2. 人事異動報告
3. 46 年度進学について
4. 教務委員会*報告 (大木教授)

理Ⅳの問題についてアンケートによる意見分布をとる。情報科学に関する講義は生物科学特論 12 として国井助教授 (情報施設) が行なう。教養の一般科目中の材料科学の履修 (生物系学生) などについて報告があった。特に、最後の件については種々討議が行なわれたが結論的なものは出なかった。(別項参照)

* 11 月 11 日

5. 人事委員会報告 (島村教授)
6. 会計委員会報告 (委員長代理 高宮教授)
昭和 46 年度科学研究費一般研究に関する学部順位。
7. 幹事会報告
幹事の交代が行なわれた。(理広報 2 巻 10 号に既報)
8. 評議会・学部長会議等の報告。
○学生の休学の規準の一部改正。
○地震研究所における状況。
○授業料値上げなどを取り上げての学生の要求が出されている。
○公開講座 (情報) が予定通り終了した。
○宇宙航空研の所長に八田教授が選任された。海洋

研の所長には奈須現所長が再任された。

○大学院問題。

○入学試験に関しては来月要項が発表される予定。

9. 全国理学部長会議について (理広報 2 巻 10 号に既報)
10. 改革委員会 (教官) の審議状況について
植村教授より委員会の現況について報告があった。現在グループにわかれて中間報告を作る作業をしており、総案が出来上った段階である。朽津教授から具体的な説明があった。
11. 学生・院生との討論集会について
11 月 1 日に行なわれた討論集会について、当日議長をつとめた飯田教授より報告があった。授業料値上げに関する学生の要望が学部長より伝えられこれに関して種々の意見が述べられた。(詳細は別項参照)

12. その他

○今井教授 (図書行政商議会議委員) から附属総合図書館より依頼のあった指定書について説明があり、12 月 1 日までに事務部庶務掛宛提出してほしい旨要望があった。

○学部長から生物化学教室の人事については、その後教室主任会議に諮り、関係教室から推せんのある教官によって小委員会を構成した旨報告があり、当該教室主任江上教授から委員会設立について謝意が述べられた。

○学部長から学部学生の 11 月 20 日のストライキについての報告があり、当日は各教官の適宜な判断で講義をされたい旨が述べられた。

教務委員会

昭和 45 年 11 月 11 日に定例の教務委員会を、また 11 月 25 日に臨時の教務委員会を開いて下記の事項について検討した。

- 1) 理学部における教育の将来計画について、秋田教授から昨年初夏に検討された理Ⅳ構想についての説明を聞き、その当時と情勢の変化も考えられるので、この問題についてアンケート調査を行ない、将来計画検討の出発点とすることにした。
- 2) 情報科学に関する科目について、別記の通りこの科目を設置することが適当と考え教授会に報告することとした。

情報科学に関する教科目の設置について

理学部付置の研究施設として情報科学研究施設が本年度から発足しましたが、この分野の教育の重要性に鑑み本年度から情報科学に関する教科目を設置することとしました。ただし本年度は規則の改正が間に合いませんので数学、物理学、天文学、地球物理学の学生諸君むけのものは地球物理学科の科目「実験測定整約法Ⅱ」を、その他の学科の学生諸君むけのものは生物学科植物学課程の科目「生物科学特論Ⅱ」をあてることにいたします。日時その他については後日案がととのいしだい発表いたします。担当は次の通りです。

実験測定整約法Ⅱ 後藤教授
生物科学特論Ⅱ 国井助教授

“総長選挙制度についてのアンケート”の理学部 におけ結果の報告

幹事会

改革委員会によって出された総長選挙制度に関する中間報告(改革フォーラム No. 12)に示されている総長選挙の暫定制度としての5つの案に対する理学部教授会メンバーの意見調査の結果を報告する。

アンケート発送数は120 うち回答総数は70 であった。

第1表

順位 案	1	2	3	4	5
A	26	24	8	4	3
A'	30	19	7	2	3
B	4	10	19	18	2
B'	1	9	11	28	5
C	6	1	7	1	38

アンケートの集計、たとえばB-3の欄は、3rd choiceとしてB案をとる人が19名であることを示す。

結果の集計は第1表に示すように、A, A', B, B' Cの5案のそれぞれについての1から5までの順位分布の形で示してある。1位はA' またはA案に、また5位はC案に集中している。

A, A' は選挙の前段階(すなわち複数の候補の選出)に教授会メンバーのみが関与するものであり、B以下は

それに他のグループも参加をする案である、が、結果は前者の Principle に対する賛成者が多いことを示している。

なお回答には、一般的意見もかかれてあるものが可成りあった。それぞれ内容的に variety があるので一つ一つについてはおしらせできないが、内容的に似た御意見が二つ以上あったものは以下のである。

(1) 改革は本当に必要なのか、総長選挙制度は現行でよいではないか。(3名)

(2) 教授会メンバー以外にのみ不信任の権利を与えているが、教授会メンバーにも与えるべきである。(2名)

「これにやや準ずるものとして、総長が評議会または教授会に信任を問う制度を考えるべきとするもの。また、総長選挙制度としてのみでなく今後の改革段階で総長が学内の信任を得つつ行なうべきとするもの、があった。」

(3) 除斥または不信任が成立す条件をかなりきびしくすべきである。(3名)

(4) どの制度をとるにせよ、総長候補者についての一般への information を徹底すべきである。(2名)

(5) 教授会メンバー以外の選挙人は大学在籍期間を一定期間以上のものにすべきである。(3名)

(6) 理学部においては助手と faculty member との間に差別をつけない方がよい。(2名)

理学部および理学系大学院の 討論集会について

11月11日16時より19時30分まで理学部1号館186号室で、理学部および理学系大学院の討論会が持たれた。当日、教官側の議長を勤めた関係でその概略を報告する。この討論集会は、授業料値上げ問題等に関係して、学生、院生より出された団交申し入れが契機となって開催されたものである。出席者は教官側は部長を含めて約15名、学生院生側約50名程度であった。

あらかじめ多くの項目にわたる質問および要求項目が出されていたが予備折衝、および議長団による前日の打合せで、次の6項目に重点が絞られた。

(1) 国立大学の授業料値上げに対して、早急に教授会で討議し、その内容を明らかにせよ。教授会として反対声明を出せ。

(2) 教授会として化学科のプレリクアイアメント制度に対する見解を明らかにせよ。その撤廃のため

に努力せよ。

(3) 院生の就職に関する実態調査の結果を明らかにせよ。

(4) 現在、理学部における教授、助教授、助手の空ポストのリストを公表せよ。

(5) 生物化学科に関して理学部教授会の中に設けられた人事委員会の成立経過と性格、権限、改革との関係を明らかにせよ。

(6) 生化、植物等で定員通り大学院入学者を取れない理由を明らかにせよ。定員どうり大学院入学者をとれ。

以上である。討論会の順序として予め部長から (2), (3), (4), (5), (6) の回答を聴き、次に (1) の討議に移り、次いで、(2), (3), (4), (5), (6) の各項目の討論を行なうよう合意していたが、おおむね、スケジュールの通り進行した。討論の結果はまず次の通りである。

(1) に関して部長は学生、院生側からの強い要望のあることを理学部教授会に伝えることを約束した。なお、当日、出席の教官から各項目に対する意見が開陳されたが、「反対に賛成である。」「反対であるが、声明を出すことには不賛成である。」「気持ちにはわかるが、一概に反対という結論は出ない。」「値上げは当然である。」など、広いスペクトルが見られた。(2) に関する部長の見解は現状が妥当なものと信じているが、カリキュラムについて学生からのフィードバックは望ましいことで、これについても現在のプレリクアイアメントが不適切である十分な理由があげられるならば化学科としてもそれを検討するにやぶさかでないと思うということであった。(3) は努力中であり、その二、三の資料が示された。

(4) も口頭で回答があった。(5) については、(1) に次いで長時間の討議がなされた。教官の人事は従来から理学部教授会の責任事項であり、生物化学科の人事に関する小委員会は今回の特殊事情のために生物化学科主任の江上教授の要請に従って理学部教授会がその責任を果すために設けたものである旨説明された。なお、これは改革とは特に関係はない。(6) に関しては、収容予定人員数は最大収容可能数を意味するのであり、適格者がその数にみたなかったことが理由である。

討議は途中で、かなり鋭い対立もみられたが、おおむね必要な秩序が保たれ、部長の同意のもとに 1 時間 30

分の時間延長があった他は予定通り終了した。

(飯田修一)

理学博士学位授与者

本学学位規則第 3 条 2 項該当者 (論文博士)

民 名	論 文 題 目	学位授与 年 月 日
瀬 川 爾 朗	Gravity Measurement at sea by use of the T. S. S. G.	45. 11. 9
飯 村 一 賀	赤外線吸収スペクトルによる鎖状立体規則性高分子の研究	45. 11. 9
杉 谷 嘉 則	NMR Study of Water in Hydrate Crystals	45. 11. 9
早水紀久子	Study on the Nuclear Magnetic Resonance Parameters of Some Typical Organic Compounds	45. 11. 9
劉 業 瑞	The genus <i>Abies</i>	45. 11. 9

学 生 関 係

昭和 46 年度進学予定者数

数 学	13 名	生 化	4 名
物 理	17 名	動 物	2 名
天 文	1 名	植 物	2 名
地 物	4 名	地 鉱	3 名
化 学	17 名	地 理	2 名
		合 計	60 名

昭和 46 年度修士課程入学内定者数

物 理	56 名	植 物	7 名
天 文	6 名	地 理	7 名
地 物	21 名	相 関	21 名
化 学	40 名	科学史	6 名
生 化	18 名		
		合 計	182 名

編 集 和 田 昭 允
理・1 号館 217 号室 内線 2298